

研究会・部会・ 委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
食品安全研究会					
食品微生物研究部会	食品産業会が抱える食品微生物関連の共通課題を、部会員が協同で(企業の枠を超えて)研究し解決を目指す。食品関連企業の微生物担当者が業務上の悩みや課題を相談・共有し相互解決できる場として機能する。当部会の研究成果を含む食品微生物に関する安全性等の情報について、広く周知活動を行う。	部会員が集まり定期的に交流や情報交換を行える場としての部会運営の再整備(アフターコロナ対応としての集まる場の整備)新規研究PJの立案および他機関との積極的な連携の実施	<p>【全体】 次回の部会会合を11/27に予定する。勉強会等の準備を進めた。</p> <p>【分科会活動】</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> 飲料の危害微生物に関する分科会メンバー間の情報交換会を10月7日にオンラインで開催した。次回は来年1月中旬頃に開催予定。 <p>(2) チルド勉強会</p> <p>a. ボツリヌス菌接種試験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動なし(追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中)。 <p>b. 耐熱性試験法検証活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本缶詰びん詰レトルト食品協会技術大会(11/19-20)発表にむけ準備中。 <p>(3) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗無し。 		

食品リスク研究部会	食品の安全性評価の考え方を学び、その普及に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ① 食品リスク研究に関する勉強会を3回以上開催し、情報発信する。 ② 「ナチュラルミステイク」の情報発信。 	① 10月30日に第2回勉強会をハイブリッド開催した(会場:森下文化センター)。「食品・食品添加物のアレルギー性評価について」と題して、国立医薬品食品衛生研究所客員研究員の手島玲子先生にご講演いただいた(有料参加者29名)。同日、部会を開催し本年勉強会についての「イルシー」誌へのフラッシュレポートの内容を確認した。	勉強会予定 第3回:12月9日(月) 場所:森下文化センター及びWebのハイブリッド 「イルシー」誌への投稿: ・勉強会全体のフラッシュレポート(162号) ・第2回勉強会の内容を手島玲子先生による書き下ろし原稿として投稿(162号)	
香料研究部会	食品香料の性質と安全性等に関し偏向の無い科学的な調査研究を行う。食品香料に関する正しい科学的共通理解を産・官・学に普及させる。	—	—	—	—
食品領域の動物実験代替推進プロジェクト(AATプロジェクト)					
全体進捗	<p><活動目的></p> <p>1) 動物に依存しない、毒性発現機序に基づいた、ヒトへの予測性のより高い評価アプローチを確立し、食品の安全性および機能性評価の精緻化・効率化を進展させること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究WGテーマ推進による評価技術基盤並びに評価戦略構築とケースレポートの作成。 ・情報収集・発信(国際ワークショップ内容のレポートによる発 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月20日 プロジェクト全体会議を開催(秋葉原外部会議室&Web開催)プロジェクト全体及び各WGの進捗と今後の活動方針・計画を共有し、全体にて承認。 ・外部発表を予定(第37回日本動物実験代替法学会、シンポジウム及び一般演題にて発表)。学会発表準備会議を設置(7月)し、発表概要(演題、発表者、発表内容骨子等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本動物実験代替法学会第37回大会(11月@宇都宮)のシンポジウム並びに一般演題(ポスター)にて発表予定。 ・12月25日にプロジェクト全体会議を開催予定(外部会議室(森下)&Web)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)、一般財団法人化学物質評価研究機構(CERI)、その他アカデミア等の専門家 ・関連学会(日本動物実験代替法学会等) ・ヨーロッパ、アジア等の

	2) 動物愛護の世界的潮流の中で食品領域の取り組みを加速させること。	信、シンポジウムの開催、勉強会の開催)。	を決定。9～10月も引き続き定期的に本会議を開催し、資料作成を進めている。		ILSI 支部
体内暴露予測ワーキンググループ (WG)	食品成分の体内曝露を、動物を用いずに予測する手法の開発推進と現場実装	<p>① 昭和薬科大学山崎研にて構築された in silico 動態予測モデルの実装</p> <p>② 新規腸管吸収予測ツールの適用性把握</p> <p>③ ケースレポート対象化合物の体内曝露予測</p>	<p>① in silico 動態予測モデルのガイドライン作成を進めた。特に今回は、本文について一通りの内容の案の作成を完了した。さらに、内容の推敲を進めている。</p> <p>② 食品成分の体内動態予測に関する各社のニーズや現状の技術の課題を整理し、来年度の計画について議論を進めた。</p> <p>③ ケースレポート対象のアルカロイドや医薬品成分について体内曝露予測を実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 食品成分の体内動態予測に関する来年度の活動計画の具体化。 昭和薬科大学山崎浩史教授と、in silico 動態予測モデルの食品成分予測に関する検討結果等について相談予定。 	
データベース WG	食品成分の既存毒性情報(文献等)を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に毒性情報を収集することも検討する。	有害性評価支援システム統合プラットフォーム (HESS) を用いた食品成分毒性試験データベース及び使用ガイダンスを含む毒性予測手法の AAT 参画メンバーへの公開	<p>昨年までに構築した食品成分の毒性試験データベース (176 種) の有用性検証を目的に Read-across の予測結果と原著論文を用いて POD やターゲット臓器の予測の妥当性検証を実施。合わせて 176 種のデータベースの公開をもって本 WG の活動を一旦完了とすることで合意済。データベースの HESS への登録や、論文データの商業利用・知財の課題について、引き続き検討中。</p> <p>【9～10 月度進捗なし】</p>	データベースの公開に向け、商業利用の課題について対応継続 (有償文献由来のデータの掲載可否確認、データベースの順次登録検討等)。	

<p>ケースレポート WG</p>	<p>NAMs (New Approach Methodologies) を用いた食品成分の安全性評価戦略を具体化させ、体内曝露予測 WG とデータベース WG の活動と協力し、in vitro assay 系を加えたリスク評価戦略を作成し、ケースレポートとして発信する。</p>	<p>第 1 弾のケーススタディは「肝障害」をテーマとし、ラット肝細胞を用いた試験から in vitro PoD を求め、評価スキームの妥当性を検証する。</p>	<p>植物アルカロイドの riddelliine を評価対象とし、BMD 解析 (EFSA Bayesian モデル) を用いて評価スキームの検証を実施中。また、BMD 解析手法の妥当性の検証を、ラットでは肝細胞壊死の報告があり、かつ、肝細胞を用いた細胞毒性の報告がある monocrotaline にて、ヒトでは医薬品を対象とし、トランスアミンナーゼの上昇と摂取量との関係が明確で、かつ、肝細胞を用いた細胞毒性の報告がある amidarone、valproic acid、zidovudine、nefazodone にて実施中。 検証方法は、in vitro では Bayesian BMD 解析にて算出した BMDL を、in vivo では肝障害のみられた用量における曝露濃度予測値をそれぞれ PoD とし、両者を比較することで進めている。これら結果は、第 37 回日本動物実験代替法学会 (2024 年 11 月 29 日～12 月 1 日、演題番号：P079) での発表に向けた準備を実施中。</p>	<p>ラットおよびヒトでの検証を実施することで評価手法の課題を抽出し、外部専門家と連携しながら設定した評価戦略の妥当性の検証を進める。Riddelliine および既存化合物での検証結果は、第 37 回日本動物実験代替法学会で発表すると共に、ケースレポートとして発信を計画している。 Riddelliine に続く肝障害の第 2 弾として、検証対象物質の選定を進める。</p>	
<p>企画運営 WG (国際ワークショップ & シンポジウム WG)</p>	<p>動物実験代替法における各国の技術・規制動向に関する情報を発信することにより、</p>	<p>評価技術に関する情報を収集しプロジェクト内へ共有すると共に、プロ</p>	<p>食品の機能性評価における動物実験代替法の活用について、プロジェクトメンバーを対象とし、専門家の先生による講演会を企画している。第 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食品安全委員会担当者との事前打ち合わせ。 ・来期の代替法講演会における演者選定。 	

より変更)	食品業界における代替法の開発や取り組みの推進を促す。	プロジェクトの活動内容を学会やワークショップ等を通じて発信する。	回目は2024年9月19日(木)に筑波大学の市川先生より「食品の消化特性を評価するヒト胃消化シミュレーターの開発と応用」と題して講演いただいた。現地参加者、Web聴講者を合わせておよそ50名の参加があり、大変盛況であった。第3回目は2024年11月8日(金)に、群馬大学の佐々木先生より「オルガノイドが紐解く腸内エコシステム」と題して講演いただく予定である。また、食品安全委員会による勉強会の準備も進めており、近く詳細を案内する。		
研究会・部会・委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
バイオテクノロジー研究会	バイオテクノロジーを用いた持続可能な食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性の理解を深め、バイオテクノロジー応用食品・作物・添加物等の安全性・活用に関する調査研究と情報提供を産・学・官連携及び国際的ネットワークを通して推進し、科	1. ERA プロジェクト調査報告(年4回) 2. バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品・食品添加物等の安全性に関するワークショップ 3. 第16回 ISBR(International Society for	・2024年度第3回研究会を9月17日に開催。 1. GM Soy with familiar traitsの局長通知改正に関するUpdate/GM Canola論文のUpdate: 2025年の計画として9月にERAワークショップ、11月にISBRに参画することが発表された。10月22日の部会長会議で承認を得ることとなった 2. 【Novel Food、フードテック、精密発酵 関連 各国認可・レギュラトリー状況の調査研究】	・植物バイオテクノロジー報告書No. 68の発行、配布 ・植物バイオテクノロジー報告書No. 69のレビュー、発行準備 ・組換えナタネ論文アクセプト ・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査 ・第17回 ISBR2025 専門家派遣のプロジェクト化可否の審議 ・2024年度高度精製品ワークショップ開催	農林水産省 消費者庁 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&つくば機能植物イノベーション研究センター(T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部

	学的根拠に基づく国際的に調和した安全性評価法や活用法の発展に貢献する。	Biosafety Research)2023 への安全性評価の専門家の派遣 4. 遺伝子組換えナタネの ERA に関する研究成果の論文発表	精密発酵の事例と規制を紹介。 また、リスクコミュニケーションの専門家を招致し登壇いただく予定。 4. 植物バイオテクノロジー報告書 No.69 原稿のレビュー ・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査。 ・2024 年度高度精製品ワークショップ企画準備。		門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部
栄養健康研究会					
栄養研究部会	「健康寿命延伸」はグローバルな持続可能な開発目標 SDGs の目標 3「すべての人に健康と福祉を」に合致することから、「健康寿命延伸」をキーワードとした活動を継続する。	「健康長寿延伸」のための最新のエビデンスを継続して発信していく。 ●公開セミナー(有料)を Zoom ミーティングで 1 年に数回開催する。 ●セミナー参加登録者に対しては、オンデマンド配信を実施する。	2024 年度第 5 回部会を 9 月 20 日(金)に花王(株)すみだ事業場(墨田区)にて、第 6 回部会を 10 月 25 日(金)に森下文化センター(江東区)にて開催。2025 年度以降の部会活動方針、活動テーマについて、意見交換をおこなった。	次回部会開催は年明け 2025 年度の子定(日程は未定)。	
GR プロジェクト	食品・食事の血糖応答性の簡易評価法(GR 法)の確立と普及	GR 法の確立・発表論文発表 他施設研究を基礎とした測定系の安定化および簡易化	低 GI 食品を含めた代表的な食品の GR 値の測定ならびに測定の安定化を図るための詳細条件の検討を進めた。	論文再投稿準備 GR 法詳細条件の検討 GI 値との比較検討	昭和女子大学 食健康科学部 健康デザイン学科 日本食品分析センター

		を目標とする			
茶類研究部会・ 茶情報分科会	茶樹に係わりその成分の世界的な多様さ、飲料その他商品に係わり各種茶成分の機能性、研究・開発・商品化等につき会員相互間の情報交換を深めると共に、外部からも情報を得る。	—	—	—	—
CHP (Center for Health Promotion)					
Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト	超高齢化が進む国内において、働きざかりの人々や高齢者の健康維持を支援する、運動と栄養の複合プログラムの開発と実践	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ヘルシーエイジングのためのプログラムの開発・普及 ➤ 介護予防教室の開催（自治体、社会福祉協議会、企業） ➤ 地域リーダーの育成（大学、社会福祉協議会、シルバー人材センター） ➤ 論文等、科学的成果の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 東京都墨田区委託事業 介護予防教室「すみだテイクテン教室」秋教室開催 すみだ共生社会推進センター (10/15, 10/29) 八広地域プラザ (10/16, 10/30) ➤ 東京家政学院大学2年次栄養プロデュース実習 実習生4班10名受け入れ予定 前半チーム（1班2班） (10/10～10/30) ➤ TAKE10! @ Web サイトリニューアル公開 ➤ 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP） 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 墨田区委託事業「すみだテイクテン」秋教室 ➤ 津和野町シルバー人材センター主催リーダー養成講座 	<p>石巻専修大学 鹿児島大学 島根大学 札幌医科大学 東京都健康長寿医療センター研究所 国立健康・栄養研究所 国立健康長寿医療センター 墨田区 横浜市社会福祉協議会 岩国市社会福祉協議会 吉賀町社会福祉協議会 津和野町シルバー人材センター 益田市シルバー人材セン</p>

			第3期「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」課題D「障がい者・高齢者の生きがい向上策」へ協力参加機関として参画		ター
Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト	途上国、新興国における官民連携の栄養改善の取組み「栄養改善事業推進プラットフォーム」(NJPPP)のプロジェクトとして、工場など職場の栄養改善プロジェクトを東南アジア各国で推進。	➤ フィリピン：「フィリピンの栄養強化米プロジェクト2022(調査研究)」2024年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。	➤ 本年度プロジェクト実施せず		✓ Food and Nutrition Research Institute (FNRI:フィリピン食品栄養研究所)
		➤ ベトナム：「ベトナムにおける野菜の摂取行動に影響を与える要因調査」ビジネスモデル構築、並びに2024年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。	➤ 本年度プロジェクト実施せず		✓ National Institute of Nutrition (ベトナム栄養研究所)
		➤ ミャンマー：「完全オンラ	➤ 本年度プロジェクト実施せず		✓ National Institute of

		<p>インによるブロックチェーン技術を応用した職場における栄養教育」 栄養教育推進に焦点を当てたビジネスモデル構築に向けた展開を計画。</p>			Nutrition
		<p>➤ インドネシア：「インドネシアにおける健康的な食事の普及に関する調査 2022」 ビジネスモデル構築、並びに2024年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。</p>	<p>➤ 本年度プロジェクト実施せず</p>		<p>✓ ボゴール農科大学 (現 IPB Univ.)</p>
CHP 全体	<p>日本の産・官・学界に蓄積された栄養学、医学、公衆衛生、衛生環境等の分野における科学的知識および技</p>	<p>➤ SUN Business Network Japan (仮称：SBNJ) 事務局機能誘致に向けた活動継続。</p>	<p>➤ 進捗なし</p>		

	術を、国内および世界的に共通な課題の解決に活用し、SDGsに基づいた社会貢献を行う。	➤ SDGs 貢献プラットフォームの形成。			
研究会・部会・委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
国際協力委員会	アジアの ILSI 各支部間の交流による食品法規動向及びリスク評価等の情報収集・共有化と ILSI Japan 関係者への成果報告	9月19~20日開催 予定の Asia Life Sciences Institutes Network (ALSIN) 会議(アジア地域 ILSI 支部との情報交換会)への参加、情報交換	<進捗> 1. 9/20 ALSIN 会議参加 開催場所：ソウル 主催：ILSI 韓国支部 ILSI Japan 出席人数 対面：5名(事務局含む) Web：5名 2. 「イルシー」誌原稿分担、執筆開始	1. 委員会を開催し、ALSIN 会議の振り返りと今後の計画について話し合う。 2. 部会長会議にて活動状況を報告する。 3. 参加者内で分担し「イルシー」誌への投稿を行う	
食品機能性研究会・AI栄養・機能性研究部会					
AI デイアトロフィ研究部門分科会	数千分子種よりなる食品摂取によるヒトの代謝状態を最新のコンピュータ技術と計算科学を活用し、高速で安価に食の機能性・安全性を予測する AI システムを構築する。	・代謝モデルの領域拡大 ・機能伝達経路のイジングモデル ・AI 教育	➤ 共同研究講座第II期 ● 第2期開始に際し、オリエンテーション会議開催(10/28)。リアル参加(本講座参画)企業は5社。Web参加は1社。 第I期の活動概略、今年度の活動計画について、情報提供。	➤ メンバーが具体的に参画できる勉強会、セミナー開催を計画する。	東北大学未来科学技術共同研究センター (NICHe: New Industry Creation Hatchery Center, NICHe) 東北大学大学院農学研究科
情報委員会・編集部会	・調査・研究活動とその成果の発表	1. 活動報告配信(年6回)	1. 活動報告 ・2024年7,8月配信(9月)。	1. 部会活動報告の配信(1月、3月、5月、7月、9	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学情報の普及 ・ 国内外の関連機関との交流・連携 	<ol style="list-style-type: none"> 2. 機関誌「イルシー」の発行（年4回） 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊（年4回）（女子栄養大学出版部との共同事業） 4. 種々出版物発刊のコーディネーター 5. ホームページ改定 	<ol style="list-style-type: none"> 2. 「イルシー」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 160号：編集中（2024年11月発行予定） ・ 161号：編集中（2025年2月発行予定） 3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 126号（=最終号）：編集完了、印刷仕上がり待ち（2024年11月発行予定） ・ 最終号に向け、購読者に対し、これまでの購読に感謝するとともに最終号となることのお知らせ文書を作成。最終号発送時に添付する。 	<p>月、11月）</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 機関誌「イルシー」の発行（2月、5月、8月、11月） 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊（2月、5月、8月、11月） 	
--	--	--	--	---	--

【事務局からのお知らせ】

<p>理事会</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホームページ改修費用 <ul style="list-style-type: none"> ● 社外からの使い勝手の悪さの指摘や、ILSI 本部や他支部のホームページと整合性がとれていない等の理由により、不具合な点を大幅に改修する提案をした。 ● 見積費用の妥当性、資金の手当てを説明した結果、全員一致で承認された。 2. 研究部会残金の取扱い <ul style="list-style-type: none"> ● 明確な活動実績のない研究部会の残金について、年度終了時に活動終了と見て事務局資金へ移すことを提案し、全員一致で承認された。 3. 2024年収支見込の報告（部会の収支は予算） <ul style="list-style-type: none"> ● 収入に関して予算に比し、会員の退会や新規会員の確保減、AI 栄養・機能性研究部会の第II期参加者の減少により9.5百万円減収。 ● 支出に関して予算に比し、本部からの総会費用の一部負担による支出増を、バイテク情報普及会に人件費の一部を負担してもらうことなどによりマイナス0.3百万円と見込む。 4. 第23回国際栄養学会議（ICN2025）への参加 <p>グローバル事務局長会議にて、パリで開催されるICN2025へのILSI Federationとしての参加について提案があった。</p>
------------	---

事務局

1. ILSI 本部関係

(1) 事務局長会議 (9/25)

1) 2025 年 8 月開催の ICN への参加・出展（セッションの内容）に向け、項目の確認を実施。今後セッション項目を確定し、担当、内容を決める。

① 文献レビューのためのレスポンシブル AI、② ヘルシーエイジングに向けた栄養、③ 健康的な人生の基礎となる幼少期の栄養、④ マイクロバイオーム、⑤ ビタミンとミネラル、⑥ 精密栄養学、が現時点での候補。

2) ポストバイテイクスに関する国際活動（消費者の知識と理解、今後のサイエンスの特定）紹介（ILSI Europe を中心）。

3) 各地域・支部の活動報告。

(2) グローバル理事会、グローバルアセンブリー会議連絡 (10/24)

・今後の会議予定

① 12 月 5 日にグローバル理事会開催

② 12 月 18 日にグローバルアセンブリー開催

・2025 年総会（バーチャル）企画委員会への参画要請

2. TAKE10! ®の商標対応 (9/11-29)

本商標は、ILSI Research Foundation (ILSI RF) が元々所有。日本における実施権は、ILSI Japan が持ち、権利継続、拡大については費用面も含め対応してきた。現在、TAKE10! ®活動は、概ね日本のみとなっている。一方、ILSI RF が無くなり、Agriculture & Food Systems Institute (AFSI) が後継として仕事を担っている。そこで、日本における登録名義変更が必要であり、AFSI に変更手続きの必要性を説明し、お手伝いすると同時に変更完了後に商標を ILSI Japan に譲渡するように依頼。先方からはその方向で進めることが了承された。